

山行NO NO. 1794-3  
日時 2018.05.01(火)曇りのち快晴  
山域 尾瀬・至仏山(2228m)  
コース 鳩待峠駐車場発5:17-鳩待峠-小至仏山-至仏山8:02-滑降開始8:15-ワル沢標高約1600スノーブリッジ9:00-オヤマ沢スノーブリッジ9:15-岳樺の自然の橋9:44-ハトマチ沢-鳩待峠下(昼食)-鳩待峠10:21-駐車場10:35  
標高差 上り 駐車場約1590m~至仏山2228m=約638m  
オヤマ沢自然橋約1500m~鳩待峠約1618m=約118m  
下り 至仏山2228m~オヤマ沢自然橋約1500m=約728m  
参加者 GT, KH

## 上りは、あっけない山だった

尾瀬を代表する高山植物と展望の山、至仏山。2億5千万年以上前にできた尾瀬最古の山で、蛇紋岩の岩肌には特有の貴重な高山植物が多いと文献にあった。初めて登る山である。春遠からじ。然し花の季節はまだ先で、鳩待峠から垣間見る至仏山の大らかな山容はすっぽりと雪に包まれていた。



鳩待峠

これなら滑りが期待できる。胸を高鳴らせながらAM5:17、鳩待山荘の駐車場を出発。月山でシール登行のあと、板の裏にシールの糊跡がべったり付き、滑らなくて一苦労したので今日は板を背負うことにした。ブナ、ミズナラ、ダケカンバなどの茂る緩やかな雪道をスキー靴で登る。足首が固く違和感があるが歩くのにそれ程負担はない。少しのアップダウンを繰り返しながらグングン登る。黙々と登っているうちに樹林帯を抜け、ひょいと思晴らしのきくトラバース道になった。其の向こうに小至仏の遠望が見える。時折ガスが邪魔をする。

CLの「小至仏の先にある大きい沢を滑るんだが・・・。ガスがあると難しいなあ・・・。」と呟くのが聞こえた。沢の全容はまだ見えないが、トラバース道から感じることは斜度が結構あるなということ。沢筋の先は山が重なって一本滑りではいけないということ。沢筋から鳩待山荘に通じる夏道に出れるかどうか心配が付きなようだ。笠ヶ岳分岐から小至仏山へ抜ける岩稜にアイゼンを軋ませながら登り、ひと下りして登りつめると、目前に岩が積み重なった真ん中に「至仏山山頂」の標識があった。あっという間に登ってしまった。



壺足が楽



朝は悪天候だった



至仏山山頂

先客が一人。後続に一人、二人と人数が増える。皆壺足だ。  
ガスの切れ間に急いで滑ろうと休憩も束の間、身支度を整えいざ滑降。  
ガスの晴れ間の下界は素晴らしい斜面が眩しく続く。  
其の中にCLが勇ましく飛び込んだ。「イヤッホー！」の掛け声にも私も続く。



オヤマ沢・1回目スノーブリッジ

こういう時、ギャラリーがいると余計発奮する。少し大振りに右に左にSの字を書きながらシュプールを描いた。この瞬間の為に、苦労を厭わず登るんだから思いっきり楽しまなくっちゃねえ。

「カモシカ」気分になって雪面を限りなく自由に下界へ滑り下りた。登山もいいがスキーは又違った面白さ、楽しさを味わえる。「ヤッホー！」と思う間もなく、標高 1800m。スキー滑降も此処で終了か。「もう終わり？」と何ともあっけなく終わってしまった。此処からヤセ尾根の樹林帯で板を背負って抜け、やっと付

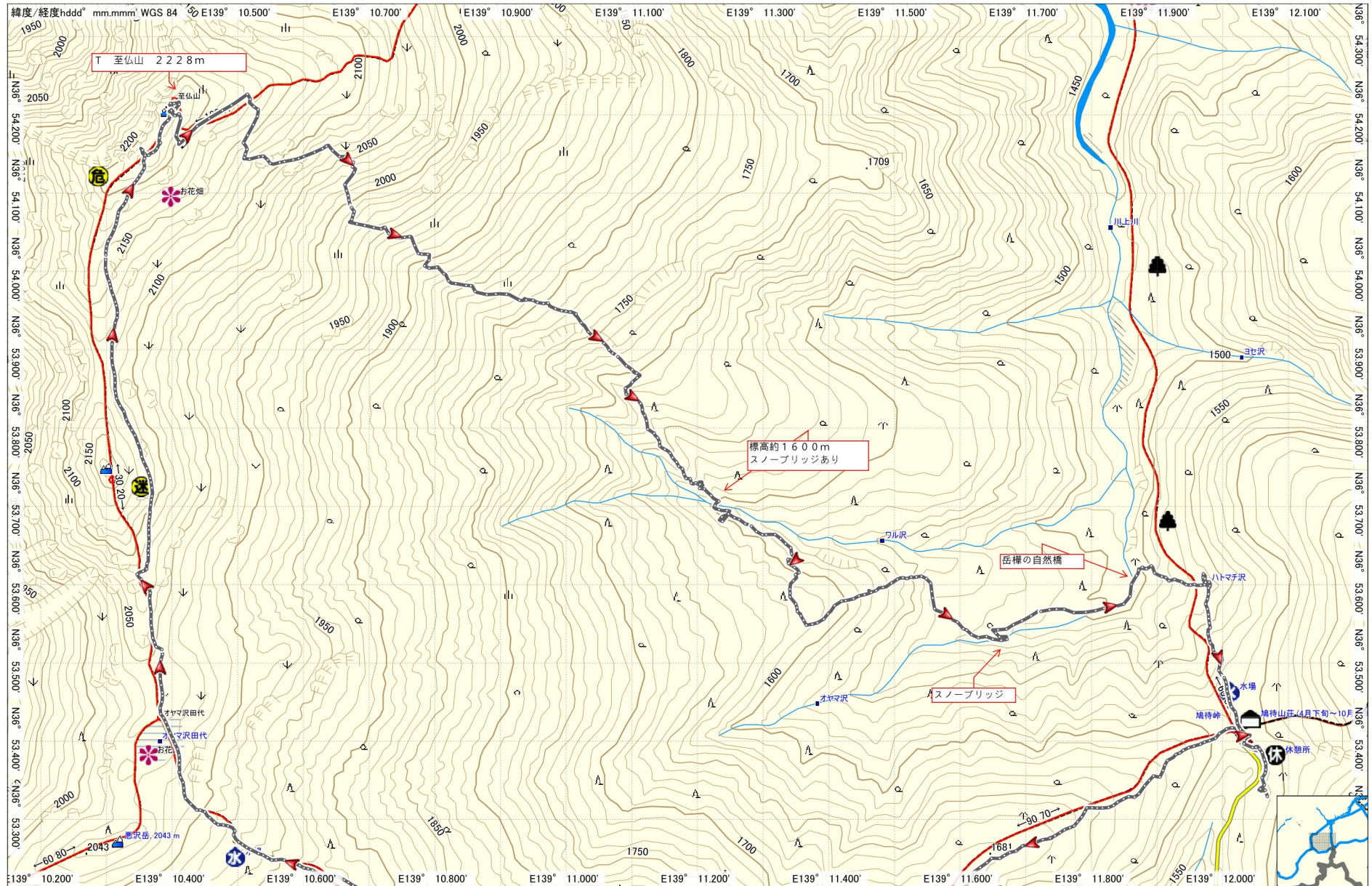
いている雪のブリッジを底が抜けないようにヒヤヒヤしながら対岸に渡る。暫くトラバース気味に歩いていくと夏道と合流。

ああ～！終わってしまった～！！



#### 追記（GT）

1. 鳩待駐車場は1日＝2500円。昔は、2000円で1000円のお土産が買えたが、その後お土産は無くなり、2000円。更にその後、2500円になったという。
2. 24時前入ると2日分掛かる。係員は17時下山する。その後なら24時前でも1日分。
3. 係りの方が優しい方、<sup>秘</sup>で教えてくれた。
4. 2回目のオヤマ沢は、岳樺の自然の橋を渡った。
5. 同じスキーコースを、何処かのオジサンが「尻制動（シリセード）」で滑っていた。（笑い）
6. 帰路、鳩待峠で「花豆ソフトクリーム」400円を食べた。



Japan Topo 10M Plus V3  
 Copyright © 2014  
 Garmin Corporation 1995-2014

2018/05/02 18:03:01

GARMIN

2018/01/01